

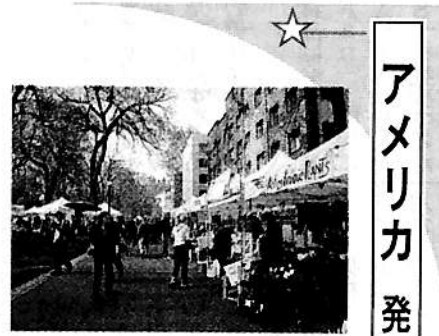
■ 持続可能な市場 ■ 良質な食べ物を再生産

米オレゴン州ポートランド。二酸化炭素(CO₂)の排出抑制につながる公共交通機関の整備や、ゴミの削減・再利用を進めるサステイナブル(持続可能)な生活文化が築かれている。

特に「地産地消」の取り組みが盛んで、ポートランドファーマーズマーケット(通称PFM)の発展は、その顕著な例だ。1992年に地元の野菜栽培や畜産を営む13店で始まったPFMは年々拡大を続け、今ではポートランドを

象徴するライフスタイルマーケットとなった。現在、市内4カ所に合計250店が出店し、年間売り上げは500万ドルに達する。有機野菜、果物、キノコ、チーズ、ソーセージのほか、焼きたてベーカリー、ピザの店から花屋までが並び、その一角では子供の料理教室や屋外コンサートも催される。

出店者はポートランド近郊の農家や地元の小売店であり、その大部分の収入が出店者自身が得る。これにより良



アメリカ

質な食べ物の再生産が可能になる。さらに運営資金の一部を地元銀行、新聞

社そして食品スーパーが支援している。ポートランド州立大学校内では毎週土曜にマーケットが開かれる＝写真。3月21日から12月19日までの期間で、時間は午前8時半から午後2時まで。ポートランドに住む人をポーターと呼ぶが、彼ら・彼女らはPFMにお気に入りのエコバッグを持参し、大地の恵みを楽しむ。サステイナブルはポートランドの都市政策の一端が垣間見られ、環境共生が経済とリンクしている。

(商い創造研究所 松本大地)